

区分	評価指標	平成22年度	平成23年度	対前年度比	図書館運営全体					
図書館運営	基本的サービス(地区図書室分を含む)				自己評価			外部評価(%は外部評価者の割合)		
	資料購入費:決算数値(千円)	15,154	14,894	1.7%減	・資料費については図書館全体で予算減となっている。 ・貸出冊数及び登録者数はオンラインを利用して市内の他の館からの利用が出来ることを積極的にPRしたことにより増加したと思われる。			1 大変評価する。57% 2 ある程度評価する。28% 3 評価できない。15% ・オンライン化により、利用がしやすいようになり利便性が図られた。 ・予算が減らされているのに貸出しが増加していることに注目したい。オンラインの効果と各館職員の対応効果もあるのではないか。 ・オンライン化したとはいえ、図書館全体で資料費減となっていることを問題視すべきだ。 ・予算減にもかかわらず、オンライン化後の落ち着いた館内で司書の方たちも親切であり、利用者が増えていることを肌で感じます。		
	蔵書冊数(点)	175,774	182,441	3.8%増						
	貸出冊数(点)	278,850	312,322	12%増						
	登録者数(人) (内新規登録者数)	7,451 883	9,083 1,016	21.9%増 15.1%増						
区分	評価指標	平成22年度	目標値(H23)	理由	平成23年度	評点	評価(次年度への展開)			
施策・事業(オンライン各館)	課題解決型図書館				自己評価			外部評価(%は外部評価者の割合)		
	レファレンス件数(件)	301	350	重点事業	451	4	1 大変評価する。57% 2 ある程度評価する。43% 3 評価できない。0% ・22年度のオンライン統合により、新津図書館、荻川、金津地区図書室の貸出予約ともに伸びている。			
	個人予約件数(件)	32,078	33,000	現状維持	51,948	4				
	ビジネス支援サービス相談受付件数(件)	—	—	—	—	—				
	ホームページアクセス件数(件)	—	—	—	—	—				
	分権型図書館				自己評価			外部評価(%は外部評価者の割合)		
	郷土・行政資料の蔵書冊数(冊)	14,178	14,600	前年に引き続き書架展示の方法改善により現状維持と想定した。	14,721	3	1 大変評価する。43% 2 ある程度評価する。57% 3 評価できない。0% ・地区図書室の蔵書はもともと少ない。新津図書館の書架を拡げ、書庫に入っていた本を開架に出したことで利用が伸びた。			
	郷土・行政資料の貸出冊数(冊)	1,845	1,800		1,986	4				
	学・社・民融合型図書館				自己評価			外部評価(%は外部評価者の割合)		
	児童書の貸出冊数(冊)	82,685	83,000	学校への搬送事業等が充実してきたので若干伸びると予想した。派遣は支援センターを主体に考え若干減らした。	88,976	4	1 大変評価する。0% 2 ある程度評価する。100% 3 評価できない。0% ・小中学校の図書費の予算からなかなか教科の参考書関係の本まで準備できないのが現状だと思います。不足する部分の援助をぜひしてほしい。 ・学校支援センターを新津にも設置すべきだ。 ・貸出しが増加していることは、本を読みたい子は多くいるということで大変よいと思います。事業参加が増えない原因(曜日・時間)を検討する必要があると思います。 ・園や学校でアンケートをとったり、PRしたりするののも一つだと思います。 ・事業参加率が上がらないのは、広報が足りないのではないか。サークル、子育て支援事業等の団体への呼びかけも行ったほうが良いと思う。			
	小中学生への貸出冊数(冊)	35,893	36,000		41,265	4				
	子ども・親子対象事業の参加者数(人)	3,170	3,200		3,173	2				
	職場体験受入人数(人)	0	3		10	4				
	講師等としての派遣職員数(人)	6	3		0	1				
	パートナーシップ型図書館				自己評価			外部評価(%は外部評価者の割合)		
図書館事業のボランティア活動者数(人)	428	430	昨年度までの実績から設定	850	4	1 大変評価する。15% 2 ある程度評価する。85% 3 評価できない。0% ・ブックスタート事業が始まった(108人) ・年度途中から書架整理ボランティア事業を開始した(257人) ・それ以外の事業も活動者は増えた。しかし ・共催事業は1件減った。ボランティアの新規拡充に力を入れていく必要がある。				
ボランティア団体交流会参加者数(人)	—	—		—	—					
利用者懇談会の開催回数(回)	—	—		—	—					
共催事業の実施回数(回)	7	7	昨年度までの実績から設定	6	2					
運営(職員)				自己評価			外部評価(%は外部評価者の割合)			
研修参加職員数(人)	5	8	前年度は電算切り替えのため参加減少。本年度は多めに設定した。	9	3	1 大変評価する。28% 2 ある程度評価する。72% 3 評価できない。0% ・データベース研修など新しい分野の知識情報におくれないう積極的に参加した。 ・予算内で計画的に実施を望みます。				

※施策・事業の評点は1:目標値を大きく下回った 2:目標値を少し下回った 3:目標どおり達成 4:目標値を上回って達成  
 ※教育ビジョン:市教育委員会が策定した指針, 新・総合計画:市の目指す都市像に向けた行政計画, 組織目標:市が実施している組織ごとの行政評価